



# 熊本市 ごみレポート2021

令和2年度(2020年度)実績

令和2年度(2020年度)におけるごみ量やリサイクル率、ごみ処理経費の収支などについて報告します。

(※植木地区を除く。)

## 1 熊本市のごみ排出状況の推移

年度	H28	H29	H30	R1	R2	対前年度比
収集人口(人)	700,960	701,859	701,843	701,752	702,117	100.1%
収集世帯数(世帯)	321,355	324,927	328,120	331,601	335,482	101.2%
年間総排出量(t)	225,198	237,725	236,078	244,978	243,822	99.5%
1日1人当たり排出量(g)	880	928	922	954	951	99.7%

### ○家庭ごみ

年間総排出量(t)	133,562	142,149	141,722	146,057	152,099	104.1%
1日当たり排出量(t)	366	389	388	399	417	104.5%
1日1人当たり排出量(g)	522	555	553	569	594	104.4%
〃(資源化された量を除く(g))	423	461	456	462	466	100.9%
1日1世帯当たり排出量(g)	1,139	1,199	1,183	1,203	1,242	103.2%

### ○事業ごみ

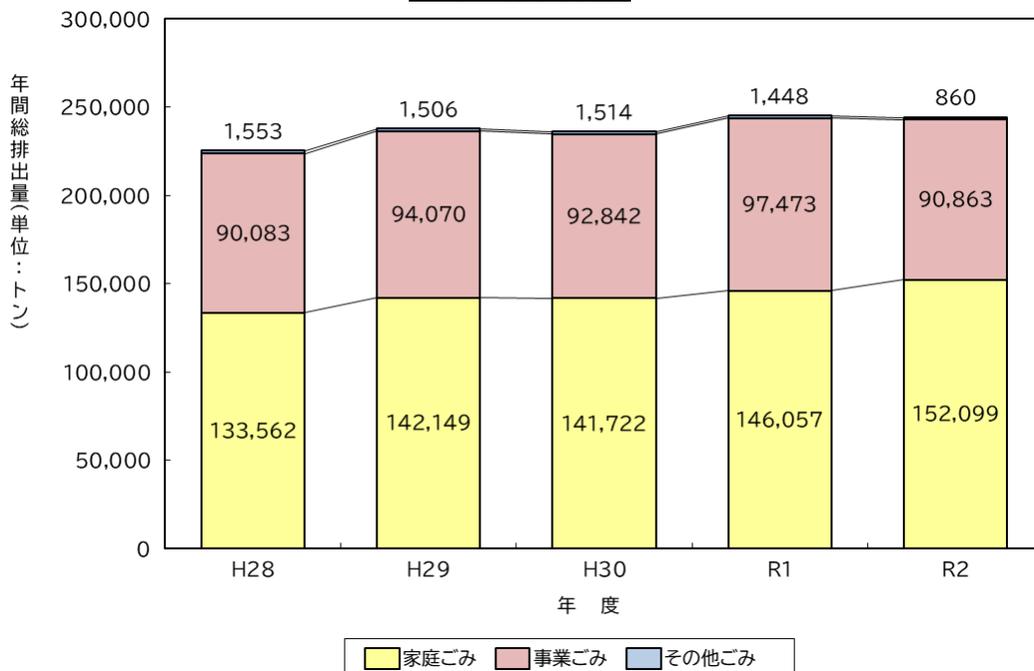
年間総排出量(t)	90,083	94,070	92,842	97,473	90,863	93.2%
1日当たり排出量(t)	247	258	254	266	249	93.6%

### ○その他ごみ

年間総排出量(t)	1,553	1,506	1,514	1,448	860	59.4%
1日当たり排出量(t)	4	4	4	4	2	50.0%

※平成28年度、29年度(2016年度、2017年度)は熊本地震による災害ごみを除く。

### ごみの排出状況

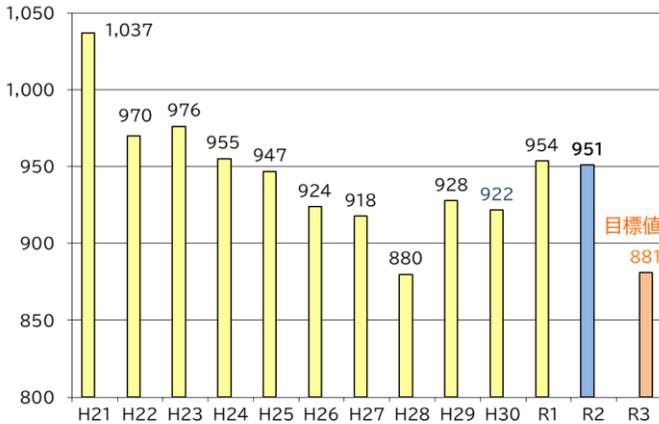


## 2 ごみ量・リサイクル率の推移

「熊本市一般廃棄物処理基本計画」（計画期間：平成23年度～令和3年度〔2011年度～2021年度〕）において、1人1日当たりのごみ排出量を881グラム、1人1日当たりの家庭ごみ排出量を450グラム、家庭ごみのリサイクル率を30%にするという目標を掲げています。

### ① 1人1日当たりのごみ排出量（集団回収量を除く。）

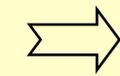
※(家庭ごみ収集量[t/年] + 直接搬入量[t/年]) ÷ 人口[人] ÷ 365[日/年]



目標値

平成21年度  
1,037g

15%減



令和3年度  
881g

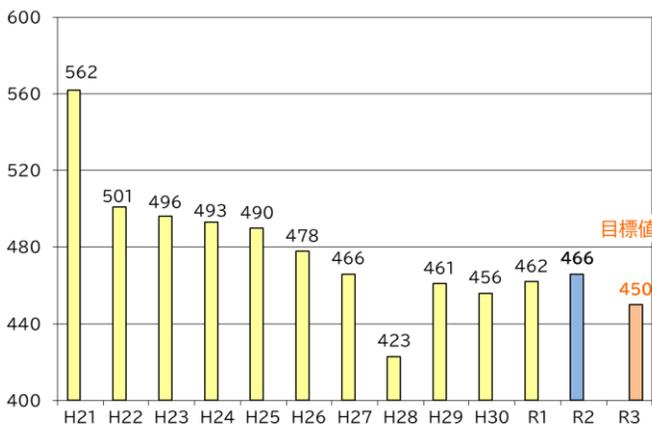
令和2年度実績

951g (8.3%減)

※平成21年度比

### ② 1人1日当たりの家庭ごみ排出量（資源化された量を除く。）

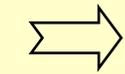
※(家庭ごみ収集量 - 資源化された量) ÷ 人口 ÷ 365



目標値

平成21年度  
562g

20%減



令和3年度  
450g

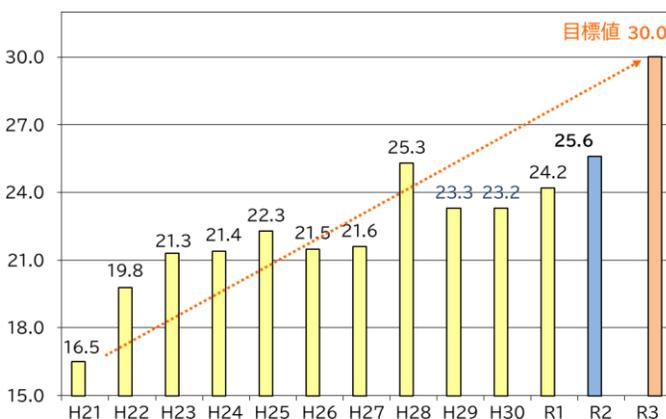
令和2年度実績

466g (17.1%減)

※平成21年度比

### ③ 家庭ごみのリサイクル率

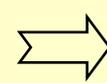
※(家庭ごみから資源化された量 + 集団回収量) ÷ (家庭ごみの収集量 + 集団回収量) × 100



目標値

13.5ポイント増

平成21年度  
16.5%



令和3年度  
30%

令和2年度実績

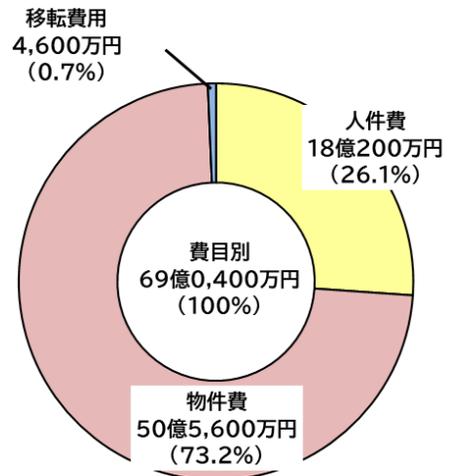
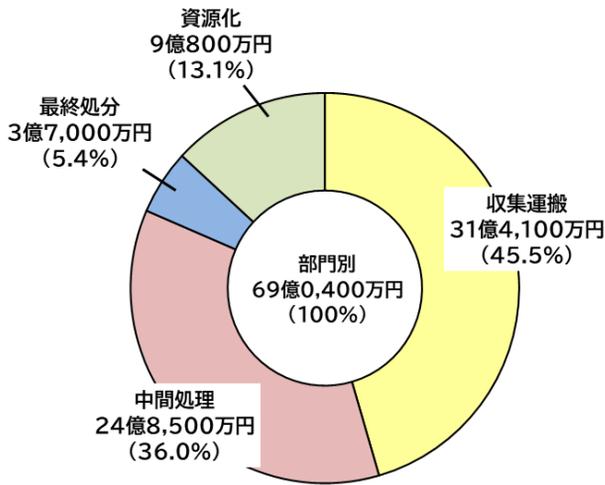
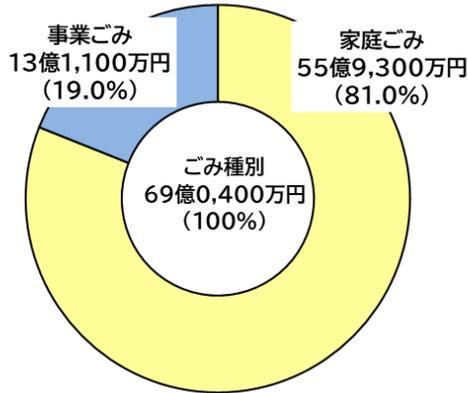
25.6% (9.1ポイント増)

※平成21年度比

# 3 ごみ処理経費の内訳

※経費については、環境省「一般廃棄物会計基準」に基づき算出

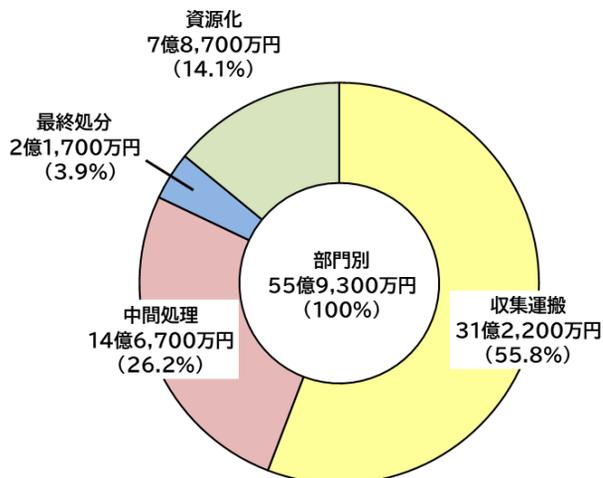
## ①ごみ処理経費全体の内訳



収集運搬：クリーンセンターの運転管理費及び  
収集運搬業務委託等  
中間処理：環境工場の運転管理費等  
最終処分：扇田環境センターの運転管理費等  
資源化：資源化処理業務の委託料等  
※運転管理費には減価償却費を含む

人件費：職員の給与等  
物件費：処理費、委託料、原価償却費等  
移転費用：補助金等

## ②家庭ごみ処理経費の内訳



## 4 家庭ごみ処理手数料の用途

家庭ごみ有料化（平成21年〔2009年〕10月実施）による家庭ごみ処理手数料の用途（令和2年度〔2020年度〕）は次のとおりです。

歳入 752,764千円

※家庭ごみ処理手数料752,764千円(植木地区含み)



歳出 752,764千円

### ①指定収集袋製造等関係経費

内 容	・指定ごみ袋の製造や流通など家庭ごみ有料化制度の運営に必要な経費 ・有料化に伴い経済的負担が特に増加する者に対する支援として実施しているごみ袋の無料交付に必要な経費
充当額	269,459千円

### ②資源物再資源化推進経費

内 容	・プラスチック製容器包装の分別収集や選別リサイクルに必要な経費 ・ごみ焼却灰を有効利用するとともに扇田環境センターの更なる延命化を図るために実施しているごみ焼却灰のセメント原料化のために必要な経費 ・資源物の拠点回収に必要な経費 ・クリーンセンターのパッカー車で使用するバイオディーゼル燃料の購入費
充当額	338,239千円

### ③きれいな街づくり推進経費

内 容	ごみステーションの管理補助やルール違反シール作成に必要な経費
充当額	47,117千円

#### ④ごみ減量・リサイクル啓発推進経費

内 容	・家庭ごみ・資源収集カレンダーの作成や、ごみ分別アプリの運用に必要な経費 ・家庭用生ごみ処理機購入助成金、生ごみ堆肥化容器購入助成金や広報経費 ・ごみ問題や環境問題に関する環境学習に使用する副読本などの作成に必要な経費 ・ごみ減量・リサイクル推進に関する市民への周知・啓発に必要な経費
充当額	18,436千円

#### ⑤リサイクル推進経費

内 容	再生資源集団回収活動への助成やリサイクル保管庫設置費助成に必要な経費
充当額	29,434千円

#### ⑥（植木町）塵芥処理費

内 容	植木地区のごみ(資源)の分別収集に必要な経費
充当額	43,279千円

#### ⑦大型ごみ受付関係経費

内 容	ごみゼロコールの運営に必要な経費
充当額	5,400千円

#### ⑧食品ロス対策経費

内 容	啓発チラシ作成、事業系食品ロス実態調査に必要な経費
充当額	1,400千円

※家庭ごみ処理手数料の用途を示したものであり、各事業費の決算ではございません。

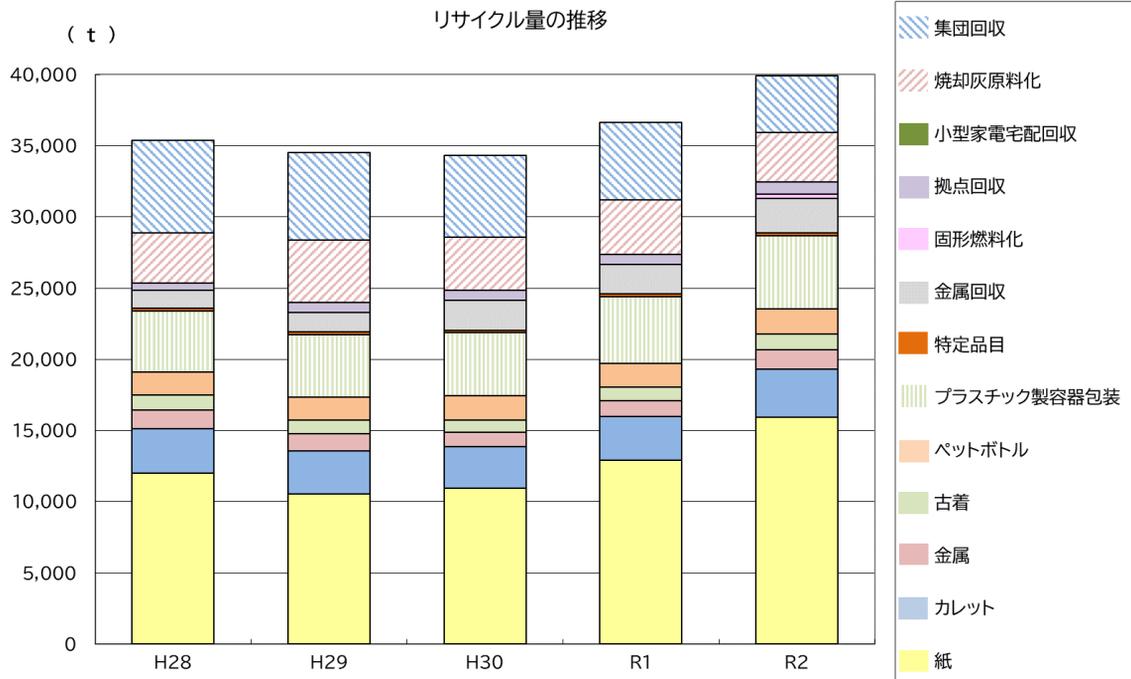
# 5 家庭ごみのリサイクル量の推移

熊本市では平成21年（2011年）10月の家庭ごみ有料化以降、プラスチック製容器包装の分別収集の実施、さらには拠点回収の品目追加や回収拠点の拡充、焼却灰原料化事業の実施など、リサイクル推進のための施策を講じてきました。これらの施策を含めた平成28年度（2016年度）以降のリサイクル量の推移は次のとおりです。

単位:t

		H28	H29	H30	R1	R2	
分別収集	紙 (新聞紙、段ボール、雑紙、紙パック)	12,007	10,569	10,936	12,932	15,944	
	資源物	カレット (ガラスびん)	3,144	3,009	2,928	3,055	3,341
		金属 (缶、なべ類、自転車)	1,268	1,189	995	1,092	1,367
		古着類 (※平成25年度まで 乾電池含む)	1,055	950	897	963	1,103
		5,467	5,148	4,820	5,110	5,811	
	ペットボトル	1,646	1,613	1,684	1,666	1,766	
	プラスチック製容器包装	4,279	4,392	4,429	4,705	5,167	
	特定 品目	蛍光管等	55	48	42	43	46
		電池類	148	136	135	138	159
		203	184	177	181	205	
	23,602	21,906	22,046	24,594	28,893		
金属回収	埋立ごみ金属回収	1,124	1,249	1,969	1,919	2,250	
	大型ごみ金属回収	118	120	129	143	150	
	1,242	1,369	2,098	2,062	2,400		
固形燃料化		0	0	0	0	290	
拠点回収		489	699	720	698	850	
小型家電宅配回収		-	-	12	23	21	
不法投棄廃家電		1	7	-	-	-	
焼却灰原料化		3,523	4,417	3,704	3,835	3,456	
集団回収		6,537	6,104	5,730	5,436	3,998	
合計		35,394	34,503	34,310	36,648	39,908	

※平成30年度以降は不法投棄廃家電は家庭ごみに含まない。



## 家庭ごみリサイクル率とは？

『家庭ごみリサイクル率』とは、家庭ごみの中でリサイクルされたものの割合を示したもので、『リサイクル量』÷『家庭ごみ排出量』で算出します。現計画では令和3年度(2021年度)までに、『家庭ごみリサイクル率』を**30%**まで引き上げることを目標として掲げています。

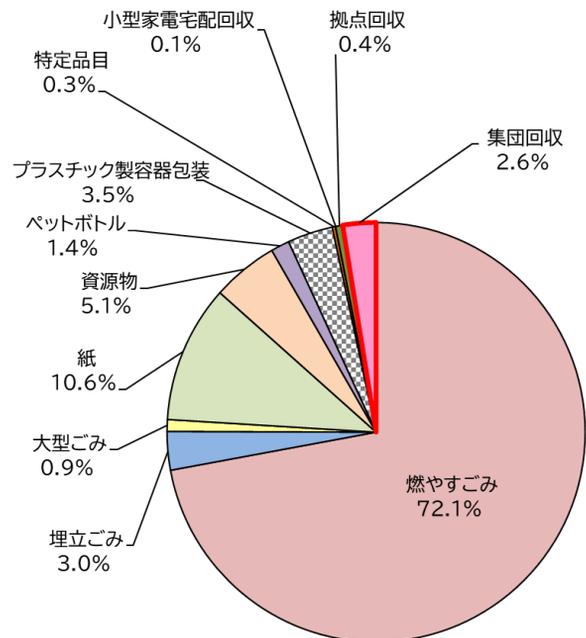
$$\begin{aligned} \text{家庭ごみリサイクル率} &= \frac{\text{リサイクル量 (集団回収含む)}}{\text{家庭ごみ排出量 (集団回収含む)}} \\ &= \frac{39,908\text{t}}{156,097\text{t}} = 25.6\% \quad (\text{令和2年度}) \end{aligned}$$

『家庭ごみ排出量 (集団回収含む)』には、「燃やすごみ」「埋立ごみ」「紙」「資源物」など、市が定期収集しているものに加え、市施設等にて実施している拠点回収で集めた資源物も含まれます。さらに町内自治会や子ども会の方々が集団回収で集められた資源物の量も加えています。

リサイクル率を上げるためには、全体の家庭ごみ排出量を減らす必要があります。市民一人ひとりのリデュース(発生抑制)やリユース(再使用)の心掛けが重要になります。

### 家庭ごみ排出量の内訳

	排出量	割合
燃やすごみ	112,528t	72.1%
埋立ごみ	4,637t	3.0%
大型ごみ	1,416t	0.9%
紙	16,561t	10.6%
資源物	7,980t	5.1%
ペットボトル	2,243t	1.4%
プラスチック製容器包装	5,472t	3.5%
特定品目	391t	0.3%
小型家電宅配回収	21t	0.1%
拠点回収	850t	0.4%
集団回収	3,998t	2.6%
計	156,097t	



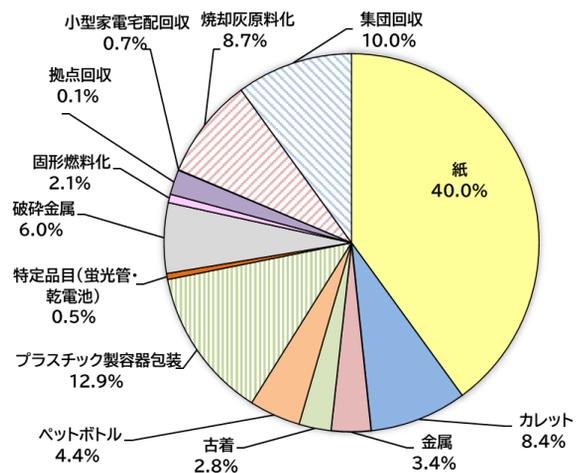
**リサイクル量（集団回収含む）**については、市が分別収集した「紙」や「資源物」などのうち、実際にリサイクルされたもの（不適合物が取り除かれたもの）の量に加え、「大型ごみ」や「埋立ごみ」を破碎して回収した金属類、拠点回収や集団回収で集められた資源物の量も含まれます。さらに、焼却施設で発生した焼却灰のうち、セメント原料化などでリサイクルされた量も加えています。

なお、分別収集した資源物はリサイクルできない不適合物が含まれているため、「排出量」>「リサイクル量」となりますが、拠点回収や集団回収で集められた資源物は不適合物が殆ど入っていないため、「排出量」＝「リサイクル量」となります。

家庭ごみ処理手数料から経費を充てているリサイクル事業もリサイクル量に大きく寄与しています。プラスチック製容器包装のリサイクル量は5,167tで全体の12.9%、焼却灰原料化量は3,456tで全体の8.7%を占めています。

### 家庭ごみリサイクル量の内訳

	リサイクル量	割合
紙	15,944	40.0%
カレット	3,341	8.4%
金属	1,367	3.4%
古着	1,103	2.8%
ペットボトル	1,766	4.4%
プラスチック製容器包装	5,167	12.9%
特定品目(蛍光管・乾電池)	205	0.5%
破碎金属	2,400	6.0%
固形燃料化	290	0.7%
拠点回収	850	2.1%
小型家電宅配回収	21	0.1%
焼却灰原料化	3,456	8.7%
集団回収	3,998	10.0%
計	39,908t	

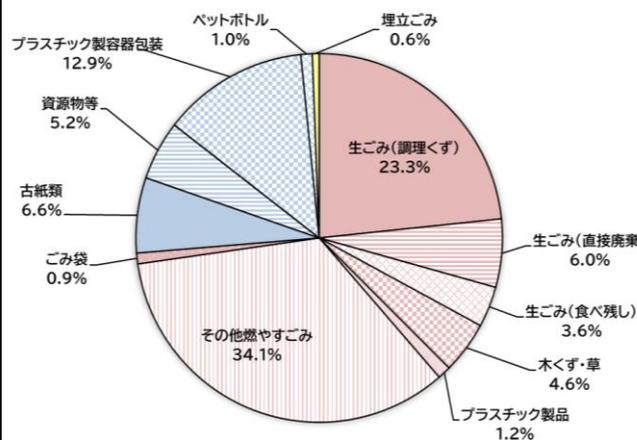


リサイクル率を上げるためには、リサイクル量を増量する必要があります。「燃やすごみ」の組成分析調査によると、「燃やすごみ」の日に出されたごみの中には、25.7%の分別すればリサイクルできるものが混在しているという結果が出ています。また、そのうちの12.9%がプラスチック製容器包装となっています。

分別の徹底は、リサイクル率向上や貴重な資源の有効活用につながりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

# 「燃やすごみ」組成分析調査結果

大分類	小分類	令和2年度構成比率 (%)	
燃やすごみ	生ごみ(調理くず)	23.3%	
	生ごみ(直接廃棄)	6.0%	
	生ごみ(食べ残し)	3.6%	
	木くず・草	4.6%	
	プラスチック製品	1.2%	
	その他燃やすごみ	34.1%	
	ごみ袋	0.9%	
	計	73.7%	
現在の分別ルールが守られていないもの	古紙類	新聞紙・折込みチラシ	2.0%
		段ボール	0.4%
		雑誌・はがき・封筒など	3.7%
		紙パック	0.4%
	小計		6.6%
	資源物等	びん・缶	0.4%
		古着	4.6%
		特定品目	0.1%
	小計		5.2%
	プラスチック製容器包装		12.9%
	埋立ごみ		0.6%
	ペットボトル		1.0%
	計		26.3%
上記のうち分別すればリサイクルできる割合		25.7%	



熊本市環境局資源循環部 廃棄物計画課

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号

電話：096-328-2359 FAX：096-359-9945

E-mail：haikikeikaku@city.kumamoto.lg.jp